

『紅樓夢』前八十回における形容詞重疊式の構文機能  
A Study of the Syntactic Function of the Adjective Reduplication  
in *A Dream of Red Mansion* in the First 80 Chapters

胡 春艷

HU Chunyan

提要：本文以《紅樓夢》前八十回為研究語料，通過對其形容詞重疊式句法功能的考察，比較了定語、狀語和補語的三種句法構成的異同點。同時從認知語言學的視角，進一步探究了形容詞重疊式在不同句法構成中的使用動因。

キーワード：『紅樓夢』 形容詞重疊式 焦点 スキャンニング 空間化

目次

- 1 はじめに
- 2 『紅樓夢』前八十回における形容詞重疊式の文成分
  - 2.1 『紅樓夢』前八十回における AA 式の文成分
  - 2.2 『紅樓夢』前八十回における ABB 式の文成分
  - 2.3 『紅樓夢』前八十回における AABB 式の文成分
  - 2.4 『紅樓夢』における形容詞重疊式の連用修飾語のコロケーション
- 3 形容詞重疊式の構文機能
  - 3.1 連体修飾語の機能
  - 3.2 連用修飾語の機能
  - 3.3 補語の機能
- 4 形容詞重疊式の構文機能の比較
  - 4.1 焦点
    - 4.1.1 文の情報構造と焦点
    - 4.1.2 文脈の焦点
  - 4.2 スキャンニング（心的走査）
  - 4.3 空間化
    - 4.3.1 空間と空間化の定義
      - 4.3.1.1 空間の定義
      - 4.3.1.2 空間化の定義

#### 4.3.2 空間化の言語化

#### 4.3.3 空間化から見た形容詞重疊式の構文機能

### 5 終わりに

#### 引用書目

#### 参考文献

## 1 はじめに

『紅樓夢』は中国清代中期乾隆年間における章回体長編小説である。明清白話小説の代表作として、前八十回は曹雪芹の作、後四十回は後人の補作、北京官話で書かれた社会百科全書<sup>1)</sup>的性格も併せ持つとされる。当時の華北地方を中心とする北方社会の言語の実態を反映しており、近代中国語から現代中国語への過渡期に位置している。

重疊の定義について、李宇明(1996:10)は、「重疊是使某语言形式重复出现的语言手段。(重疊とは、ある言語形式を重複出現させる言語手段である：筆者訳、下同。)」と指摘している。重疊は中国語の代表的な描写手段として、主に形容詞重疊式および動詞重疊式を中心に観察される。『紅樓夢』における形容詞重疊式は用例数、バリエーションともに豊富で、場面や対象を効果的に描写することを可能にする。

本稿は、『紅樓夢』における形容詞重疊式の使用状況をつぶさに観察することを通して、構文機能を明らかにすることを目的に、主に連用修飾語、連体修飾語、補語としての使用状況を比較し、認知言語学を援用しながら、なぜ形容詞重疊式が連用修飾語として多用されるかを解明する。

## 2 『紅樓夢』前八十回における形容詞重疊式の文成分

### 2.1 『紅樓夢』前八十回におけるAA式の文成分

『紅樓夢』前八十回におけるAA式は、異なり語数が132、延べ語数が541である。文成分としての状況を考察した結果、連用修飾語の例が最も多く、326例に達する。述語と連体修飾語はそれに次ぐ。AA式は『紅樓夢』において、すべての文成分となっていることがわかる。表1は『紅樓夢』前八十回におけるAA式形容詞重疊式の文成分についての使用実態を示したものである。

表1 『紅樓夢』前八十回におけるAA式形容詞重疊式の文成分

文成分 形式	連用 修飾語	連体 修飾語	補語	述語	主語	目的語	独立語 <sup>2)</sup>
使用例	326	82	8	112	3	2	9

<sup>1)</sup> 王利器(1979) <《紅樓夢》是学习官話的教科書>《紅樓夢學刊》第1輯, pp.163-168.

<sup>2)</sup> 黄伯榮 廖序东(1991/2011:77)は、独立語について、「独立語独立于八种配对成分之外，它是句子的特殊成分。」と指摘する。本稿は、前後と独立し、関連がない成分を「独立語」と見なす。

## 2.2 『紅樓夢』前八十回における ABB 式の文成分

“啣拉拉”“忒楞楞”“哗啦啦”“哎呦呦”“暖呦呦”“豁唧唧”“豁刺刺”“忽喇喇”などの擬声語を除き、『紅樓夢』前八十回における ABB 式は、異なり語数 64、延べ語数 123 である。

石椔（2010:238）は、元明清に ABB 式形容詞は主に連用修飾語として使用され、次は連体修飾語、それから述語の順であり、補語とする例が少ないと指摘する。表 2 は『紅樓夢』前八十回における ABB 式形容詞重疊式の文成分を示したものである。

表 2 『紅樓夢』前八十回における ABB 式形容詞重疊式の文成分

文成分 形式	連用 修飾語	連体 修飾語	補語	述語	主語	目的語	独立語
使用例	74	18	2	12	2	3	12

『紅樓夢』前八十回における ABB 式の文成分を考察した結果は、石（2010）の指摘と概ね同じである。

## 2.3 『紅樓夢』前八十回における AABB 式の文成分

『紅樓夢』前八十回における AABB 式重ね型は、異なり語数 124、延べ語数 225 を数えるが、文成分と語義が形容詞に合致する重疊式を扱い、『現代汉语重疊形容詞用法例釋』、『現代汉语词典』（第 7 版）に収録される語例を参考にする。“咕咕唧唧”“嘻嘻哈哈”など 19 語の擬声語は、『現代汉语重疊形容詞用法例釋』に収録されるが、研究対象に含まれず、“公公婆婆”“上上下下”などは『紅樓夢』において形容詞の用法で用いられないことため、本稿では、研究対象に含まない。したがって、『紅樓夢』前八十回の AABB 式形容詞重疊式は、異なり語数 91、延べ語数 156 である。

石椔（2010:174）は、元明清に、AABB 式は主に連用修飾語として、従的に述語と補語と連体修飾語も存在し、少数主語と目的語とすると指摘している。表 3 は『紅樓夢』前八十回における AABB 式形容詞重疊式の文成分を示したものである。

表 3 『紅樓夢』前八十回における AABB 式形容詞重疊式の文成分

文成分	連用修飾語	述語	補語	連体修飾語	主語	目的語
使用例	65	70	9	5	3	4

『紅樓夢』における AABB 式の文成分について、述語がやや多く、次は連用修飾語であり、これは石（2010）と異なり、他の文成分は概ね石（2010）の指摘と一致する。

以上のように、『紅樓夢』における形容詞重疊式は、連用修飾語として使用される比率の高いことが明らかとなった。AA 式と ABB 式は、連体修飾語としての使用語例も少なくな

い。現代中国語では、文成分を木に譬えると、主語、動詞、目的語が木の主幹であり、連体修飾語、連用修飾語、補語が枝葉であると思われる。形容詞重畳式はなぜ連用修飾語として多用されるのか。以下に、連体修飾語、連用修飾語、補語の構文機能を比較したうえで、連用修飾語に多用される動機付けを解明することを試みる。

#### 2.4 『紅樓夢』における形容詞重畳式の連用修飾語のコロケーション

『紅樓夢』における形容詞重畳式の実例を見ると、コロケーションにはどのような特徴があるであろうか。小野秀樹（2020：23）は、「実例を見渡すと、連用修飾語が共起する場合、大部分の文において、動詞には同時完了や持続を表す接辞（“了”や“着”）や結果補語、方向補語などがともなう。」と指摘する。『紅樓夢』におけるAA式形容詞重畳式が連用修飾語とする場合、接辞（“着”“了”）と方向、結果補語と共起する例文が114例、ABB式が19例、AABB式が30例となっている。AA式が連用修飾語としての例文を挙げると、“着”と共起する例文が15、“了”と共起する例文が65、「動詞＋方向補語」と「動詞＋結果補語」と共起する例文が31である。その中で、“了”と共起する例文が最も多いことがわかる。たとえば、

- (1) 这里凤姐儿又劝解了秦氏一番，又低低的说了许多衷肠话儿。（第11回：p.154）
- (2) 探春道：“小厮们知道什么。你拣那朴而不俗，直而不拙者，这些东西，你多多的替我带了来。我还像上回的鞋作一双你穿，比那一双还加工夫，如何呢？”（第27回：p.369）
- (3) 晴雯听说，忙用指甲挑了些嗅入鼻中，不怎样。便又多多挑了些嗅入。忽觉鼻中一股酸辣透入凶门，接连打了五六个嚏喷，眼泪鼻涕登时齐流。（第52回：p.705）
- (4) 宝玉见他这样，便怅然如有所失，呆呆的站了半天，思前想后，不觉滴下泪来，只得没精打彩，还入怡红院来。一夜不曾安稳，睡梦之中犹唤晴雯，或魇魔惊怖，种种不宁。（第79回：p.1122）
- (5) 说着真个回去了。凤姐儿忙赶上拉住，笑道：“好姐姐，我喝就是了。”说着拿过酒来，满满的斟了一杯喝干。（第44回：pp.587）
- (6) 贾琏已经笑着去了，到了前面见了贾政，果然是小和尚一事。贾琏便依了凤姐主意，说道：“如今看来，芹儿倒大大的出息了，这件事竟交予他去管办。横竖照在里头的规例，每月叫芹儿支领就是了。”（第23回：p.308）
- (7) 当下地下侍立之人，无不掩面涕泣，黛玉也哭个不住。一时众人慢慢解劝住了，黛玉方拜见了外祖母。（第3回：p.38）

例文(1)から(7)までは、AA式形容詞重畳式が連用修飾語とする例であり、後の動詞が“了”と共起し、完了のAspectを表す。

- (8) 李纨近日也略觉精爽了些，拥衾倚枕，坐在床上，正欲一二人来说些闲话。因见尤

氏进来不似往日和蔼可亲，只呆呆的坐着。(第 75 回:p.1040)

- (9) 湘云道：“大正月里，少信嘴胡说。这些没要紧的恶誓、散话、歪话，说给那些小性儿、行动爱恼的人，会辖治你的人听去！别叫我啐你。”说着，一径至贾母里间，忿忿的躺着去了。(第 22 回:p.296)
- (10) 这里宝玉忙忙的穿了衣裳出来，忽见林黛玉在前面慢慢的走着，似有拭泪之状，便忙赶上来，笑道：“妹妹往那里去？怎么又哭了？又是谁得罪了你？”(第 32 回: p.433)
- (11) 一面说，一面脱了褂子。只见他里头穿着一件半新的靠色三镶领袖秋香色盘金色绣龙窄袖小袖掩衿银鼠短袄，里面短短的一件水红装缎狐欣褶子，腰里紧紧束着一条蝴蝶结子长穗五色宫绦，脚下也穿着麂皮小靴，越显的蜂腰猿背，鹤势螂形。(第 49 回:p.661)
- (12) 这尤三姐松挽着头发，大红袄子半掩半开，露着葱绿抹胸，一痕雪脯。底下绿裤红鞋，一对金莲或翘或并，没半刻斯文。(第 65 回:p.909)

例文 (8) から (12) までは、AA 式が連用修飾語とする例であり、後の動詞が“着”と共起し、持続のアスペクトを表す。

- (13) 太爷听了甚喜欢，说：“这才是”。叫告诉父亲母亲好生伺候太爷太太们，叫我好生伺候叔叔婶子们并哥哥们。还说那《阴骘文》，叫急急的刻出来，印一万张散人。我将此话都回了我父亲了。我这会子得快出去打发太爷们并合家爷们吃饭。”(第 11 回:p.151-152)
- (14) 凤姐缓缓走入会芳园中登仙阁灵前，一见了棺材，那眼泪恰似断线之珠，滚将下来。(第 14 回: p.184)

例文 (13) では、“急急”が連用修飾語となり、後の動詞“刻”が結果補語“出来”と共起し、例文 (14) では、動詞“走”と方向補語“入”と共起する。

以下に、ABB 式と AABB 式の例文を挙げる。

- (15) 刘姥姥方扭扭捏捏在炕沿上坐了。(第 6 回: p.100)
- (16) 一语未了，只听咯噔的一声门响，麝月慌慌张张的笑了进来，说道：“吓了我一跳好的。(第 51 回: p.695)
- (17) 宝玉听了，以为奇特，少站片时，果见贾蔷从外头来了，手里又提着个雀儿笼子，上面扎着个小戏台，并一个雀儿，兴兴头头的往里走着找龄官。(第 36 回: p.481)
- (18) 刚过了沁芳亭，忽见岫烟颤颤巍巍的迎面走来。(第 63 回: p.875)
- (19) 林黛玉直瞪瞪的瞅了他半天，气的一声儿也说不出。(第 30 回: p.407)
- (20) 那老婆子见了袭人，便笑嘻嘻的迎上来，说道：“姑娘怎么今日得工夫出来逛逛？”

(第 67 回: p933)

- (21) 刘姥姥听说, 巴不得一声儿, 便拉了板儿登梯上去。进里面, 只见乌压压的堆着些围屏, 桌椅, 大小花灯之类, 虽不大认得, 只见五彩炫耀, 各有奇妙。(第 40 回: p530)

以上のコロケーションの動機付けについて、小野秀樹 (2020: 24) は、「具体的かつ個別的な行為や事態をありのままに (実況的に) 言語化し伝えていることを表している。」とまとめる。本稿は、4.3 で空間化を提起し、詳述する。

### 3 形容詞重疊式の構文機能

#### 3.1 連体修飾語の機能

黄伯荣ほか (1991/2011:65-66) は、連体修飾語を意味の面から“限定性定语”と“描写性定语”に分け、“限定性定语”は分類の役割を担い、“描写性定语”は、ヒトとモノの性質、状態を描写し、ビビット性を有すると指摘する。特に、“描写性定语”において、状態形容詞と性質形容詞の重疊式が多用されると述べる。すなわち、描写性を表す場合、概ね形容詞重疊式が使用される。

#### 3.2 連用修飾語の機能

黄伯荣ほか (1991/2011:69) は、連用修飾語を大まかに「限定性」と「描写性」に分け、「描写性状語是从性质和状态方面对事物加以描写或形容, 在语法结构上也是修饰谓词性成分。」と指摘する。形容詞重疊式は連用修飾語として、描写性も表し、“描写性状語”に属する。刘月华 (1982:26-27) は、「双音节形容词、形容词重疊式、形容词短语以及固定词组做程度补语时, 全句是描写性的, 从表意方面来看, 句子的中心在补语; 作状语时, 全句是叙述性的, 句子的中心在动词。」と指摘する。しかし、形容詞重疊式が連用修飾語として使用する場合、動作の性状も描写し、叙述性だけではなく、描写性も表す。

#### 3.3 補語の機能

黄伯荣ほか (1991/2011: 71-74) は、補語を“結果补语”“情态补语”“趋向补语”“数量补语”“时地补语”“可能补语”“程度补语”の7種類に分ける。そのうち、“情态补语”において、“状态形容词”か“谓词性短语”が使用され、描写を表し、“性质形容词”が使用され、評価を表すと指摘する。形容詞重疊式は、概ね“情态补语”の役割を担う。

しかし、吕叔湘 (1978/2002:19) は、「就意义方面说, 凡是动词后面的附加语都有表示动作结果的意义, 用“得”连接的尤其明显。动词前面的附加语表示的意思是多方面的, 时间、空间、状态、方式、手段、目的、关系人物, 都可以用它表示。」と指摘する。すなわち、動詞後の補語、特に“得”と共に起することは、動作の結果を表し、これに対して、動詞前の連用修飾語は、“时间、空间、状态、方式、手段、目的、关系人物”などを表す。形容詞重疊式は連用修飾語として、動作の状態を表すことが多い。

以上の指摘に基づき、形容詞重疊式は文成分のタイプに関わらず、描写性を表すため、

文法的意味から区別できないが、本稿では、認知言語学の知見を援用し、三つの文成分を比較してみることにする。

#### 4 形容詞重畳式の構文機能の比較

比較を容易にするため、同じ形容詞重畳式が使用される例文をあげ、異同点を検討する。例えば、

(22) 他圆圆地画了一个圈。

(23) 他把圈画得圆圆的。

(24) 他画了一个圆圆的圈。

##### 4.1 焦点

###### 4.1.1 文の情報構造と焦点

大島吉郎 (2021: 12-13) は、中国語における文の語順について、「(1) 時系列 (動作・行為・事柄の発生順; 認知の順)、(2) 旧情報(既知)から新情報(未知)へ (情報の価値が低い既知のものから未知の情報へ)、(3) 大 (きな単位) から小 (さな単位) へ、(4) 際立ちの大きいものから小さいものへ (目立つものから目立たないものへ)」とまとめる。本稿は、大島 (2021) の指摘を踏まえて、上記の例文 (22) (23) (24) の情報構造の階層性を分析してみることにする。

例文 (22) の情報構造は以下の図 1 で示したものである。

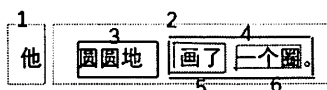


図 1 : 例文 (22) の情報構造図

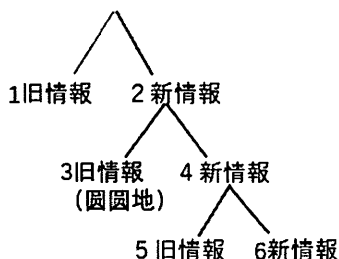


図 1 : 例文 (22) の情報構造図

第 2 階層の中で、4 に対して、3 は旧情報であり、4 は新情報である。第 4 階層の中で、6 に対して、5 は旧情報であり、6 は新情報である。例文 (22) の全体からみると、大島 (2021) の指摘のように、旧情報から新情報へ (情報の価値が低い既知のものから未知の

情報へ) の語順で進む。

例文 (23) の情報構造は、以下の図 2 で示したものである。

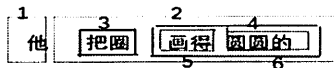


図 2 : 例文 (23) の情報構造図

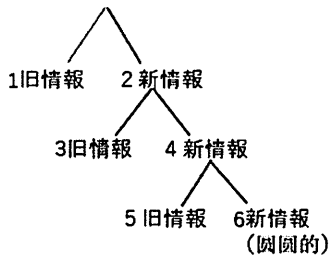


図 2 : 例文 (23) の情報構造図

例文 (24) の情報構造は、以下の図 3 で示したものである。

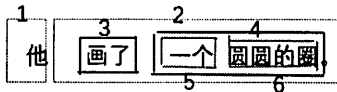


図 3 : 例文 (24) の情報構造図

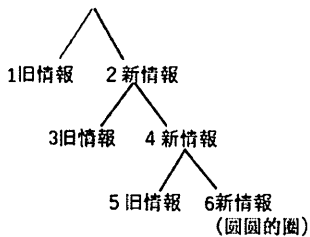


図 3 : 例文 (24) の情報構造図

カレル フィアラ (2000:1, 13) は、情報構造は、その成分の「情報価値」に基づいて文節されると述べる。情報価値の最も高い成分は「焦点」である。また、情報構造は、言語活動における「情報管理」に基づき、語順を規定する普遍的な要素である。ここで挙げられる「情報管理」とは、具体的な言語表現に情報価値を付加し、表現形式の選択によって明示する際の作業である。情報価値の度合いは、発話者の意図と関連性と、発話者による聴者の意識の評価によって定まっていると指摘する。また、カレル フィアラ (2000:5) は、情報構造の「基層」は文主節レベルの情報構造である。情報価値は、成分省略の場合、



その残存率によって決まると指摘する。

上記の図のように、例文 (22) から (24) まで、旧情報から新情報への語順で進んでいる。例文 (22) の 6 新情報は、“一个圈”であり、更に詳しく分けるとすれば、最後の新情報は名詞の“圈”である。この文の主文節は、残存される「他画了圈。」であり、情報価値高い部分が焦点と見なされ、最終の着眼点は“圈”に置かれる。例文 (24) の 6 新情報は、“圆圆的圈”であり、さらに詳しく分ければ、最後の新情報は例文 (22) と同じく、名詞の“圈”であり、最後の焦点も同じである。例文 (22) 例文 (24) と異なり、例文 (23) では、最後の新情報は“圆圆的”、焦点は形容詞重畳式に絞られる。

文の枝葉としての連体修飾語、連用修飾語、補語の中で、補語は連用修飾語と連用修飾語より、さらに重要であるため、取り立てて強調したい情報である。よって、例文 (23) では、補語の“圆圆”に注目させ、そこに焦点を絞っているのである。

上記例 (23) の焦点は、例文 (22) 例文 (24) と異なり、すなわちどんな情報を伝えたいのであるか或いはその文で何を新情報として述べるか、という点から明らかとなる。

しかし、例 (22) と例 (24) では、文の階層で焦点は異なりがないと言えるが、実際に文脈から検討すれば、焦点も異なりがあることが窺える。

#### 4.1.2 文脈の焦点

以下に、同じ形容詞重畳式が連用修飾語と連体修飾語とする例文を挙げ、文脈から焦点を比較する。

(25) 半日鸦雀不闻之后，忽见二人抬了一张炕桌来，放在这边炕上，桌上碗盘森列，仍是满满的鱼肉在内，不过略动了几样。(第 6 回：p.97)

(26) 众小厮听他说出这些没天日的话来，唬的魂飞魄散，也不顾别的了，便把他捆起来，用土和马粪满满的填了他一嘴。(第 7 回：pp.114-115)

例文 (25) では、“满满”は、連体修飾語として後の名詞“鱼肉”を修飾し、いっぱいのごちそうを表す。文脈から、「卓上には皿小鉢がずらり並び、なかには魚肉の類が山盛りのままで、ほんの二、三品しか手をつけてないふう<sup>3)</sup>」のように、「荣国府」の贅沢な食事を描写する。

例文 (26) では、「用土和马粪满满的填了他一嘴」のフレーズから見ると、“满满”が連用修飾語として、後の動詞“填”を修飾し、「いっぱいにつめこんでしまう」を通して、動作の描写性を表す。例 (26) と例 (25) は、描写的であると分析できるものの、文脈から焦点が異なる。例文 (25) では、形容詞重畳式が使われ、伝えたい情報は、卓上の料理の様子である。これに対して、例文 (26) では、「形容詞重畳式+動詞」の構造は、動詞の描写のほかに、言外の意味として、なぜこの動作をするかを説明することを表す。口を塞い

<sup>3)</sup> 日本語訳は「曹霑作 伊藤漱平訳 (1996.9-1997.11)『红楼梦』(1-12 冊) 平凡社」参考。

で「焦大」にしゃべらせようとしな目的は、家族の醜聞を外に漏らせないようにするためである。

次に、同じ形容詞重畳式と動詞を組み合わせる例文を比較してみよう。

(27) 说着真个回去了。凤姐儿忙赶上拉住，笑道：“好姐姐，我喝就是了。”说着拿过酒来，满满的斟了一杯喝干。(第44回：pp.587 例(5)の再掲)

(28) 侍者揭下铺盖，斟了满满一玻璃杯，溢到茶托里的也有一杯那么多。另一个侍者来到桌子跟前。(BCC コーパス)

例文(27)と例文(28)では、どちらも「なみなみ一杯注がせる」を表すものの、例文(27)では、なぜ凤姐はなみなみお酒を一杯つぐかを解釈してみよう。鴛鴦に酒を勧められて、どうしても飲まなければならないためである。例文(28)では、後の「溢到茶托里的也有一杯那么多」から、お酒を一杯にする様子を表す。文脈から“斟了满满一玻璃杯”の原因は窺えない。

すなわち、形容詞重畳式が連用修飾語とする場合、文脈から「原因の解釈」の言外の意味を含んでいると考えられよう。例(27)では、“满满”は、観察者から動作主体の動作を主体的に認知しようとしているに留まり、実際に酒杯が満杯であるかについては言及していないため、必ずしも結果を表すものではない。

#### 4.2 スキャンニング(心的走査)

上記例文(22)(23)(24)において、“圆圆”は、それぞれ連用修飾語、補語、連体修飾語として使用される。2.1、2.2、2.3で言及したように、形容詞重畳式は連用修飾語、補語、連体修飾語いずれの環境においても描写性を有する。例文(22)では連用修飾語として、後の動詞「描く」を修飾する。小野秀樹(2020:24)は、「連用修飾語が行為や状態のあり方を描くのにに対して、補語は行為にともなう様態の程度や結果状態を提示することにより、話者が認定した評価を表す。」と指摘する。例文(23)では、形容詞重畳式が補語として、動作の結果の状態を表す。例文(24)は、“了”と共起し、全体から動作の結果の存続状態を表し、「AA的N型」は「現場的」描写<sup>4)</sup>を表す。例文(22)(23)(24)では、認知のプロセスの面で、相違点があると考えられる。

例文(22)は、例文(23)(24)と異なり、動作の開始、進行、完成の過程に注目し、動態のスキャンニング(心的走査)の認知プロセスが認められ、視点の定位に異なりがあると考えられる。

例文(22)では、観察者の視点は固定されずに、視線は事態の経過に伴って、動作者の動作の「開始、進行、完了」の過程に伴って、スキャンニングを行ってから、最後の結果を得る認知プロセスである。観察者は、継続的に観察対象の動作に着目し追跡し、動態的

---

<sup>4)</sup> 小野秀樹(2020:25)参照。

な視線を通して、動作の過程を言語化する。これに対して、例文の(23)(24)は、動作の「開始、進行、完了」の動的な認知過程を表さず、動作完了の存続の結果を表す。視点は固定され、視線のスキャンニングの移動を行わないため、静的な認知プロセスであると言えよう。

この観点から、例文(22)は動作のすべての過程を記録し、話者の参加度が高いと認められる。小野秀樹(2020:24)は「連用修飾語を用いた文は、ある行為や事態をリアルタイムで実況的に伝え、過去の回想であっても録画を再生するかのように出来事を語る。」と指摘する。すなわち、連用修飾語は、連体修飾語と補語より、「臨場感」が高く、情景をいきいきと描写する。形容詞重畳式は、連用修飾語として使用される場合、描写性の特徴と最も高い親和性を有し、連用修飾語多用性を説明に対して合理性がある。

### 4.3 空間化

小野秀樹(2020:27)は、「AA地V」型は、基本的には連体修飾構造の“AA的N”型と同様の機能を持つ。すなわち、具体的かつ個別的な行為や状態について、話者が実際に知覚した行為の様態(=あり方)をそのまま描くという機能である。」と指摘する。さらに、小野(2020)は『『現場的』描写』と概括する。“AA的N”について、胡春艶(2022)は、空間化の観点から、基式(性質形容詞)を起点に重畳式(状態形容詞)へのプロセスを、「红花→一朵红花(我的红花)→一朵红红的花」を例に取って、認知プロセスを説明する。すなわち、「類→空間化の実体化→空間化の個」の認知プロセスである。次に、空間化の観点から形容詞重畳式の連体修飾語を説明することにより、形容詞重畳式を連用修飾語とする認知プロセスについて解明する。木村英樹(2002:8)は、“的”の機能拡張について、「事物」を区別限定する機能から「動作」を区別限定機能への拡張という解釈を示す。形容詞重畳式は、“的”の機能拡張のように、個別の「事物」から個別の「動作」への拡張も認められる。

#### 4.3.1 空間と空間化の定義

##### 4.3.1.1 空間の定義

認知の主体・話者の定位が確定し、すなわち主体によるスキャンニングの起点が確定する。空間というのは、認知の主体・話者のスキャンニングの「起点・経路・着点」のプロセスの容器のメタファーである。

##### 4.3.1.2 空間化の定義

すべての事象は空間を基盤として完成される。事象の発生・存在・消失、行為の開始・進行・完了、移動の起点・経路・着点、事象の性状などは、存在の空間がなければ、成立できない。空間として、まず、観察者(話者)と観察対象を設定することが前提であり、これによって、空間の形式(現実空間と脳内空間)を設定する。話者(観察者)は、設定された空間に入って、それから、自身の位置づけをし、定位する。認知とその言語化は観察者の定位を基盤として、観察者の視点を固定するプロセスとして位置付けられる。空間化というのは、観察者が観察対象によって、空間が設定され、空間内で観察するプロセスを指す。

動詞の空間化について、大島（2021:13-14）は、次のようにいう。

多様な事象の中からある一つの出来事を取り上げ（切り取り）、それを具体的な個別の動作として捉えると、動作が起こる空間、つまり動作の主体が存在することを前提とした地点を設定し、参照点（ランドマーク LM）とする必要が生じる。動作は空間において展開するからである。動作の主体が空間を確定（占有し存在）することで動作（行動）の発生が担保され、現実の事象として認識されるのである。

#### 4.3.2 空間化の言語化

李宇明（2000:2）は、「“空間”是人类最重要的认知范畴之一，任何语言都必须把这一范畴语言化。空间范畴的语言化有各种各样的表现形式，名词是其主要表现形式之一。（『空間』は、人類の最も重要な認知範疇の一つであり、いかなる言語においても、この範疇を言語化しなければならない。空間範疇の言語化には様々な表現があり、名詞は主要な表現形式の一つである。）」と指摘する。

代表的な事例として、空間の存在を基盤として認知され、言語化されるものに、「名詞と数量詞の組み合わせ」を上げることが出来る。これは、静態の観点から認知される結果と考える。空間に存在するヒト、モノ、コトの動態が認知される場合、動詞で表し、存在主体の性状が認知される場合、形容詞で表し、異なる言語手段を通して、空間性の強弱が表現できる。ヒト、モノ、コトは、空間に存在する主体であり、言語化として名詞で表し、動詞と形容詞は、主体の存在を基盤として、ヒト、モノ、コトの動作と状態を表す。以下に空間化の仮説を提案し、空間に存在する主体およびその動作、状態の言語化を試みる。

空間化の言語化は、文法的手段により、ヒト、モノ、コト（具体的な存在と抽象的な存在として）を数量、時間、性状などの方面から言語で表現することである。空間化の文法的な手段は、以下の品詞を用いる。名詞として、一般的に名詞と組み合わせる数量詞を通して示され、動詞として、一般的に動詞と組み合わせるアスペクト助詞を通して示され、形容詞として、一般的に形容詞重畳式を通して示される。

#### 4.3.3 空間化から見た形容詞重畳式の構文機能

形容詞重畳式は、上記三つの文において、連体修飾語として名詞を修飾し、連用修飾語として動詞を修飾し、補語として動詞を補充する。形容詞重畳式は、空間化の言語化の文法手段として、修飾する名詞と動詞を通して実現される。動詞が表すコトと名詞が表すヒト、モノは、設定する空間に存在することを前提として、文法手段の一つの形容詞重畳式を通して空間化している。

胡春艶（2022）は、「形容詞重畳式+N」について、空間化の観点で説明する。胡（2022）の指摘を踏まえて、空間化の観点を通して、動詞の空間化を説明する。動詞について、大島（2021：19-20）は、位置移動動詞と動作動詞について、位置移動動詞は空間に[起点・経路・着点][開始・進行・完了]というプロセスがあり、動作動詞が空間に[開始・進行・完了]というプロセスがある。また、動詞は微視的・分析的・個別的対象の[+動的][－静的][±移動]が観察されると指摘する。

形容詞重畳式が修飾する名詞は、個別の対象である。名詞から動詞に拡張すれば、形容詞重畳式が修飾する動詞は、個別的な動作であり、設定する空間に存在することと見なされる。

形容詞重畳式の使用は、名詞の性状と動詞の情状を描写し、リアルタイムの「臨場感」を表す。なぜ、形容詞重畳式が連用修飾語として多用されるのか。

形容詞重畳式が名詞を修飾する場合、静的な存在を前提として、ビビット性を描写する。これに対して、形容詞重畳式が動詞を修飾する場合、位置移動動詞にせよ、動作動詞にせよ、動的な存在を基盤として、いきいきとした描写を表し、スキャンニングの認知プロセスを通して観察される。言語化に際して、AA式は連用修飾語として、“着、了、过”のアスペクトの空間化のマーカと共起しやすい。

例文(22)(24)は、すべて空間化の存在を前提し、個別的な事態・事象を表す。例文(22)では、動詞の動的な存在を基盤として、例文(24)は名詞の静的な存在を基盤とする。沈家煊(1999:152)は、「有生命的比无生命的显著(因为能动的比不能动的显著)」と指摘する。人間の認知能力からみると、動的な対象と静的な対象に対して、動的な対象がもっと際立ち、注目されやすく、認知されやすいのである。たとえば、人間は、静止しているものより、運動しているものが見落としにくい。よって、形容詞重畳式で描写性を表す場合、個別の対象の位置移動と動作が認知されやすいため、言語化すれば、形容詞重畳式が修飾する動詞のケースは、修飾する名詞のケースより、多く使用されるという動機付けが可能である。認知の異なりを適用することで、形容詞重畳式が連用修飾語として多用される動機付けを合理的に説明出来る可能性が見出せる。

## 5 終わりに

本稿は、『紅樓夢』における形容詞重畳式の構文機能を考察し、連用修飾語が連体修飾語と補語より、使用頻度が高いことを指摘する。三機能ごとに比較し、情報構造と焦点、スキャンニング、空間化から、形容詞重畳式が連用修飾語に多用される動機付けを明かにし、以下の三点にまとめる。

(1) 中国語の語順構造の特徴を通して、形容詞重畳式が連用修飾語、連体修飾語、補語となる場合、旧情報から新情報への順序で進んでいる。文の階層から見た焦点は、補語と最後の名詞に絞られることから、二グループに分けられる。文脈の階層で形容詞重畳式が連用修飾語とする場合、焦点は原因を表す部分に絞っている傾向がある。

(2) 認知のプロセスで比較した結果、形容詞重畳式が連用修飾語となる場合、動作の過程に注目し、スキャンニングの認知プロセスが認められ、視線の移動で認知しやすいため、形容詞重畳式の描写性の特徴と最も高い親和性を有し、多用性に対する説明として合理性がある。

(3) 空間化の観点からみると、形容詞重畳式は空間化の言語手段として、修飾する名詞と動詞を契機とする。空間化は、設定する空間に名詞の静的な存在と動詞の動的な存在を

基盤として認知される。名詞の静的な存在から動詞の動的な存在へ拡張し、個別的なモノ、ヒトと個別的な動作を表す。動的な存在が認知しやすいため、より多用される。

#### 付記

本研究は、2020年黑龙江省省属本科高校基本科研业务费东北石油大学引导性创新基金—艺体外专项プロジェクト「中日形容词重叠式的对比研究——以《红楼梦》为中心」（課題番号：2020YTW—W—04、研究代表者：胡春艶）の助成を受けている。

#### 引用書目

（前八十回）曹雪芹著（後四十回）無名氏續 程偉元 高鶚整理（2008）『紅樓夢』人民文學出版社

#### 参考文献

大島吉郎（2021）「中国語における『状態』についての試論—『状態』をどう規定するか」『中国言語文化学研究』第10号 pp.11-29.

小野秀樹（2020）「現代中国語における形容詞の連用修飾機能」『Language, Information, Text = 言語・情報・テキスト』（27）東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要 pp.19-30.

カレル フィアラ（2000）『日本語の情報構造と統語構造』ひつじ書房.

木村英樹（2002）「“的”の機能拡張—事物限定から動作限定へ」『現代中国語研究』第4期 pp.1-13.

胡春艶（2022）「認知言語学見た『紅樓夢』前八十回における形容詞重叠式—基式との関わりを中心に—」大東文化大学大学院中国言語文化学専攻・外国語学部中国語学科共催第23回学術シンポジウムプログラム.

黄伯荣 廖序东（1991/2011）《现代汉语》（增订五版）上下册 高等教育出版社.

吕叔湘（1978/2002）《语法修辞讲话》吕叔湘全集 第四卷 辽宁教育出版社.

刘月华（1982）<状语与补语的比较>《语言教学与研究》第1期, pp.22-36.

李宇明（1996）<论词语重叠的意义>《世界汉语教学》第1期, pp.10-19.

——（2000）《汉语量范畴研究》华中师范大学出版社.

沈家煊（1999）<转指和转喻>《当代语言学》第1期, pp.144-166.

石砚（2010）《汉语形容词重叠形式的历史发展》商务印书馆.

王国璋 吴淑春 王干桢 鲁善夫（1996）《现代汉语重叠形容词用法例释》商务印书馆.

王还（1984）<汉语的状语与“得”后的补语和英语的状语>《语言教学与研究》第4期, pp.61-66.

王利器（1979）<《红楼梦》是学习官话的教科书>《红楼梦学刊》第1辑, pp.163-168.

中国社会科学院语言研究所词典编辑室 编（2016）《现代汉语词典》（第7版）商务印书馆.